

## 救急外来受診の手引き(2) — 腹痛 —

公立世羅中央病院 院長 末廣 眞一

元気な人が救急外来を受診するときに、命に係わる救急疾患の中で、最も多い訴えが腹痛ではないでしょうか？腹痛を起こす病気の中には命の危険を伴うものが少なくありません。

都合の悪いことに痛み程度と必ずしも相関しません。すなわち、痛みが軽くても命にかかわることもあり、尿路結石や胆石のように激的な痛みでも生命には危険が及ばないものもあります。しかしながら、総じて軽い我慢のできる痛みの場合も病気自体も軽いものです。命に関わるようなものでも痛みが軽い場合、時間とともに徐々に強くなるので、それからでも遅くはありません。また、下痢をしてお腹が痛いときは痛みの原因は腸の痙攣(蠕動痛)ですので、水分さえしっかり摂っていれば救急外来を受診することは必要ありません。痛みが和らいできて我慢できるようになる場合も、救急外来を受診しなくてもよいで

しょう。

胆石発作や尿路結石では激的な痛みが和らぐことがしばしばあります。

では、どんな腹痛の時に救急で診てもらえばいいのでしょうか？わたくしたちは次のような痛みの性状や合併症状がみられるときは緊急で受診した方がよいと考えます。

①腹痛が突然発症し、急激にひどくなる時。

これは消化管の穿孔や内臓を栄養する動脈が閉塞したときの症状で命に係わります。

胆石や尿路結石の発作でも突然に痛みが発症します。鑑別は難しいので救急外来を受診してください。

②腹痛はゆっくりと発症し、比較的軽い、歩くとおなかに響くとき。

これは腹膜炎の症状で、虫垂炎や胆嚢炎、膵炎、大腸の憩室炎などでみられます。この場合痛みが

軽くても救急外来を受診した方がよいと思います。

③嘔吐を伴うとき

胆石症、胃あるいは十二指腸潰瘍、急性胃炎、腸閉塞症で見られます。

④おなかが膨らんできて、便やガスが出ないとき。

腸閉塞症や腹膜炎で見られます。この場合も症状が軽くても救急外来を受診した方がよさそうです。

⑤痛みが背中に広がるとき

大動脈瘤破裂や膵炎で見られます。緊急を要しますので、ぜひ救急外来を受診してください。

⑥おなかに胆石や慢性膵炎などの持病があつて、痛むとき。

持病が悪化していると思われるので、かかりつけの先生に相談して、救急外来を受診してください。

以上、腹痛の中で緊急を要するものとそうでないものを簡単に説明いたしました。公立世羅中央病院では、緊急で受診された腹痛の患者さんに対して、まず、聴診器での腸の音を聞いたり、お腹を押さえたりして診察し、必要に応じて血液検査や尿の検査、超音波検査、レントゲン検査、内視鏡検査などをその場でおこない、命に係わる病気かどうかを判断するようになっています。